

皆様おはようございます。雪の寒い時の束の間、雨が続いています。

あと10日ももしましたら3月です。春がついそこまで来ています。三寒四温の時、気温が上がり下がりして、花粉が飛びますが、皆様お元気にお過ごしください。

さて読み進めてまいりました黙示録も、今週と最終を残すのみとなりました。悪魔の暗躍と、神様の悔い改めへの促しと裁きの数々が示され、ついにこの21章にたどり着きました。

1 わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。

2 また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。

3 また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、

4 人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである」。

ここには「もはや」という言葉が3回繰り返されています。

もはや海はない。もはや死もなく、もはや悲しみも叫びも痛みもない。

新しい天と地が出来、海はない。海は、古代人にとっては嵐が起こって人の命が失われたりして、その深い水の奥底には魔物がいると考えられたりして、恐怖の場所であり、悪の根源の宿る場所とも考えられていました。

しかしそれらのものは過ぎ去りました。

神の民である教会はずっと困難と迫害の中を辿っていましたが、その時は過ぎ、今は夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来ます。この先に数々の宝石が登場しますが、宝石はそれ自体光るものではありませんが、光に照らされる時、キラキラと輝きを放ちます。そのように、神の都、聖なるエルサレム、教会は花婿なるイエス様の前に着飾らせていただき、輝きを放ちます。

3 また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、

4 人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである」。

涙がありました。死があり、悲しみと叫びと痛みがありました。神様を信じながらも、それでも私たちにはそのような数々の苦しみがありました。しかし、その時には神の幕屋が人と

共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとして下さる、そのような時があるのです。今の苦しみの時は過ぎ去ります。そして神様が間近におられるその所で、私たちの目の涙を全く、ことごとく拭い取って労って頂けるときがあるのです。

5 すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。また言われた、「書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである」。

6 そして、わたしに仰せられた、「事はすでに成った。わたしは、アルパでありオメガである。初めであり終りである。かわいている者には、いのちの水の泉から価なしに飲ませよう。

7 勝利を得る者は、これらのものを受け継ぐであろう。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

先のは過ぎ去り、新たにされ、事は成就し、初めであり終りである、一切のことを支配しておられる方が共にいて下さり、渴ける者には値なくしていのちの水から飲ませてくださいます。もはや窮することも貧することもなく、悩み苦しみから解き放たれて十分に満たされてある生活に入ることが出来ます。

8 しかし、おくびょうな者、信じない者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、まじないをする者、偶像を拜む者、すべて偽りを言う者には、火と硫黄の燃えている池が、彼らの受くべき報いである。これが第二の死である」。

ヘブル 10:35 だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。

10:36 神の御旨を行って約束のものを受け取るため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。

10:37 「もうしばらくすれば、／きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない。

10:38 わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、／わたしのたましいはこれを喜ばない」。

10:39 しかしわたしたちは、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である。

そのような状況の中で、すべてを知り極めておられ、私たちが苦しみから、窮乏から救い出して満たして下さるお方がおられ、いつも共にいて、過ごして下さり、目の涙をことごとく拭い取って下さるお方がおられるのですから、どうして私たちは疑ったり、また救う力のない者にすがったりすることが出来るでしょうか。

詩編 139:1 主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。

139:2 あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。

139:3 あなたはわが歩むをも、伏すをも探り出し、わがもろもろの道をことごとく知っておられます。

139:4 わたしの舌に一言もないのに、主よ、あなたはことごとくそれを知られます。

139:5 あなたは後から、前からわたしを囲み、わたしの上のみ手をおかれます。

139:6 このような知識はあまりに不思議で、わたしには思いも及びません。これは高くて達することはできません。

139:7 わたしはどこへ行って、あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行って、あなたのみ前をのがれましょうか。

139:8 わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。わたしが陰府に床を設けても、あなたはそこにおられます。

139:9 わたしがあげぼのの翼をかって海のはてに住んでも、

139:10 あなたのみ手はその所でわたしを導き、あなたのみ手はわたしをささえられます。

139:11 「やみはわたしをおおい、わたしを囲む光は夜となれ」とわたしが言っても、

139:12 あなたには、やみも暗くはなく、夜も昼のように輝きます。あなたには、やみも光も異なることはありません。

9 最後の七つの災害が満ちている七つの鉢を持っていた七人の御使のひとりがきて、わたしに語って言った、「さあ、きなさい。小羊の妻なる花嫁を見せよう」。

21:10 この御使は、わたしを御霊に感じたまま、大きな高い山に連れて行き、聖都エルサレムが、神の栄光のうちに、神のみもとを出て天から下って来るのを見せてくれた。

21:11 その都の輝きは、高価な宝石のようであり、透明な碧玉のようであった。

21:12 それには大きな、高い城壁があって、十二の門があり、それらの門には、十二の御使がおり、イスラエルの子らの十二部族の名が、それに書いてあった。

21:13 東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。

21:14 また都の城壁には十二の土台があり、それには小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。

21:15 わたしに語っていた者は、都とその門と城壁とを測るために、金の測りざおを持っていた。

21:16 都は方形であって、その長さとは幅とは同じである。彼がその測りざおで都を測ると、一万二千丁であった。長さとは幅とは、いずれも同じである。

21:17 また城壁を測ると、百四十四キュビトであった。これは人間の、すなわち、御使の尺度によるのである。

21:18 城壁は碧玉で築かれ、都はすきとおったガラスのような純金で造られていた。

21:19 都の城壁の土台は、さまざまな宝石で飾られていた。第一の土台は碧玉、第二はサファイヤ、第三はめのう、第四は緑玉、

21:20 第五は縞めのう、第六は赤めのう、第七はかんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉石、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。

21:21 十二の門は十二の真珠であり、門はそれぞれ一つの真珠で造られ、都の大通りは、すきとおったガラスのような純金であった。

小羊の妻なる花嫁。神様はイエス様の血といのちによる贖いにより、私たちに命を授けて下さいました。

エペソ 5:25 夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。

5:26 キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

5:27 また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

宝石も、金も、どんなにか貴重なものであったとしても、暗闇の中ではその輝きを現すことは出来ません。

21:22 わたしは、この都の中には聖所を見なかった。全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所なのである。

21:23 都は、日や月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。

主なる神様と小羊イエス様が聖所であり、小羊イエス様が都のあかりです。この神様の光によって、都も、神の都に住む民も輝きます。

ヨハネ 8:12 イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。

1 ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あ

あなたがたが語り伝えるためである。

それにしましても、大きな都です。長さや幅がそれぞれ2220kmです。城壁の高さは65メートルで、都の高さも2220kmです。面積はオーストラリアの65パーセントくらいですが、高さが2200kmとは、飛行機が飛ぶところが高度1万メートルで10kmですから、驚くばかりです。100メートルのタワーマンションが25階建てくらいとのことですから、55万5千階にも上る建物となります。面積500万平方キロメートルでその高さですから、その居住者となりましたら、世界が始まってから今生きている人たちをすべて収容したとしても余りがあることでしょう。

指してその都の基礎には数々の宝玉が当てられ、12の門は、それぞれ真珠から作られ、都の大通りは純金で作られているとのこと、こんなに晴れやかな荘厳な都はいまだ建てられたことがありません。そのようなところに私たちもまた住むことになるのです。

21:22 わたしは、この都の中には聖所を見なかった。全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所なのである。

21:23 都は、日や月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。

この都の中には聖所がなく、苦勞して探さずとも、聖所に出向かずとも、全能者にして主なる神と小羊とが聖所そのものです。そして太陽も必要としません。なぜなら小羊イエス様が明かりだからです。

ヨハネ 4:21 イエスは女に言われた、「女よ、わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。

4:22 あなたがたは自分の知らないものを拝んでいるが、わたしたちは知っているかたを礼拝している。救はユダヤ人から来るからである。

4:23 しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。

4:24 神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」。

詩編都もうでの歌

121:1 わたしは山にむかって目をあげる。わが助けは、どこから来るであろうか。

121:2 わが助けは、天と地を造られた主から来る。

121:3 主はあなたの足の動かされるのをゆるされない。あなたを守る者はまどろむことが

ない。

121:4 見よ、イスラエルを守る者は／まどろむこともなく、眠ることもない。

121:5 主はあなたを守る者、主はあなたの右の手をおおう陰である。

121:6 昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない。

121:7 主はあなたを守って、すべての災を免れさせ、またあなたの命を守られる。

121:8 主は今からとこしえに至るまで、あなたの出ると入るとを守られるであろう。

今までも、部分的にはこの守りがありました。しかし天では顔と顔とを合わせて神様に拝することが出来ます。

21:24 諸国民は都の光の中を歩き、地の王たちは、自分たちの光栄をそこに携えて来る。

21:25 都の門は、終日、閉ざされることはない。そこには夜がないからである。

21:26 人々は、諸国民の光栄とほまれとをそこに携えて来る。

21:27 しかし、汚れた者や、忌むべきこと及び偽りを行う者は、その中に決してはいれない。はいれる者は、小羊のいのちの書に名をしるされている者だけである。

諸国民という言葉がここにはあります。この言葉はもともとユダヤ人ではない者、神の民ではないものを指しました。3節の「人は神の民となり」というこの「民」という言葉とは一線を画していました。しかしイエス様の贖いにより、世界のすべての人々が神様の救いに預かるようになりました。それぞれのかつての在り方、文化、それぞれの考え方や栄光をもって、共に一つとなって、神様のご栄光の前にひれ伏し、礼拝し過ごすのです。神様の都にはこのような多様性をも残されていることが示唆されています。

しかしそこまで神様が思い、認め、救ってくださろうとしておられるのに、いまだ心を改めず、贖いに感謝して受け取ることをしない人のためには神様の救いは残ってはいません。小羊のいのちの書。小羊がその血をもって、命をもってなしてくださった救いに感謝して、その救いを感謝して信じ受け入れるのならば、誰にでもこの救いは開かれています。

「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のが、すでに過ぎ去ったからである」。

21:22 わたしは、この都の中には聖所を見なかった。全能者にして主なる神と小羊とが、その聖所なのである。

21:23 都は、日や月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである。

21:25 都の門は、終日、閉ざされることはない。そこには夜がないからである。

この光栄の中を、この美しい都の中を、私たちは小羊の花嫁として着飾られている都の民として光の中を歩き続けることが出来るのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。苦しみと悩みと痛みを過ぎ去らせ、値なしにいのちの水から飲ませてくださり、教会と私たちを夫のための花嫁のように美しく着飾らせ、神様の光の前に宝石のように輝かせ、神様の栄光を現してくださる、神の都での生活をお示しくくださり、ありがとうございます。「神は自ら人と共にいて、その神となり、目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる」ことをありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン